

看護いばらき

+

No.123

2019年
1月18日

公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association



☆トピックス☆

P9 新企画

仕事していて、こころに残った一言

CONTENTS

- 2 新年のごあいさつ
- 4 精神科看護～一般病棟で役立つ精神疾患別症状アセスメントと看護ケア～
- 5 公益社団法人茨城県看護協会創立70周年記念式典・祝賀会
- 6 中堅看護職～自己と他者のストレスマネジメント～
- 7 アドバンス・ケア・プランニングと看取り
- 8 地域包括ケア病棟の紹介＜牛尾病院＞
- 9 新企画 仕事をしていて、こころに残った一言
- 10 いばらき看護職合同進学就職説明会
- 11 2019年度改選役員、推薦委員及び2020年度日本看護協会代議員・予備代議員への立候補について
- 12 平成30年度理事会報告・訪問看護支援事業

会員数

(平成31年1月8日現在)

合計 14,792人

保健師 349人

助産師 531人

看護師 12,846人

准看護師 1,066人

亥年 新年のごあいさつ



公益社団法人 茨城県看護協会

会長 相川 三保子

「看護の職能団体として、新たなステージへの挑戦」

年頭にあたりごあいさつ申し上げます。

あけましておめでとうございます。

平成最後の新年となりますが、会員の皆様には、穏やかに、お健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。一方、職場や訪問先等で新年と仕事始めを同時にお迎えの方々、こころより敬意と感謝を申し上げます。

昨年本会は、11月3日に会員の皆様方、関係団体の皆様方の多大なるご支援、ご協力により創立70周年の記念式典を盛会のうちに終了することができました。

これまでも社会とのつながり、社会からの大きな影響を受けながら看護職能団体として、使命を果たしつつ大きく成長・発展して参りました。諸先輩が築き上げてきた歴史と伝統に敬意を表するとともに、これを節目として、本会の更なる発展になお一層貢献できるよう、尽力して参ります。新たなステージへそして、いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護の実現を目指し、共に歩んでいただければ幸いです。

さて、茨城県の看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）の就業者数は、29,139名で人口10万対比では全国43位と低位を占めております。今、医療・看護を取り巻く環境は大きく変化し、少子超高齢社会が急速に進展する中で、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、人生の最期を迎えることが出来る環境を整備していく中で、社会が看護職に求める役割期待も多くなっております。特に訪問看護ステーションは地域に密着し、暮らしの場で24時間365日ケアを継続する看護の拠点として重要な役割を担っています。しかし、現在、訪問看護に従事する看護職は、全就業者の約2.5%にすぎません。2025年を見据えた人材確保は、喫緊の課題となっており「在宅療養・訪問看護推進研修」等により人材育成に努めているところでございます。

少子超高齢社会を看護職としてどう支えていけるかその一翼を担えるよう、14,500名の会員お一人おひとりの力を結集し、他団体、多職種の方々と連携を強化しながら、しっかり課題に取り組んで参りたいと考えております。

皆様の一層のご支援、ご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとって輝かしい年でありますようにお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。



「新年のご挨拶」

専務理事 白川 洋子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、70周年の節目の年を皆様とともに迎えることができました。先人たちの軌跡から今ここにあることに感謝を覚えた式典でありました。会員の皆様ありがとうございました。

本会の目的は看護職が誇りを持って安心して働き続けられることにより、保健・医療・福祉の推進を図ることにあります。このような目的を達成するための一つとして重点事業を掲げ取り組んでいるところです。「入院」と「生活の場」との関係を調整できる看護職の幅広い対応力が地域共生社会実現に期待されております。本年も時代に求められている事業を展開していることから会員の皆様のお力添いを宜しくお願いいたしますとともに、皆様にとり良い年でありますようご祈念いたします。



「変化する時代に対応した人材育成」

常任理事 大槻 解子

新年あけましておめでとうございます。

2019年を迎え、2025年の超高齢化問題まであと6年、2030年の人口減少、労働力不足問題まであと11年となりました。医療の提供体制が変化する時代にあって私たち看護職の果たす役割は、ますます増大していき、それとともに看護実践能力が問われていきます。

看護師のクリニカルラダー（JNA版）は全国共通の看護実践能力の指標であり看護の質を保証するものです。昨年度からJNAラダーの枠組みでの研修を組み立ててきました。今年は、さらに在宅関連の内容を強化しました。看護職個人の成長と組織として看護職の育成のために、どうぞ、看護協会の研修等をご活用下さい。多くの参加をお待ちしております。

県内において昨年は看護師2年課程通信制が開校され准看護師の方々の進学が推進されました。引き続き准看護師の方々への支援を継続していきます。会員の皆様にとって、この1年が良い年でありますようお願い申し上げます。



「新年を迎えて」

常任理事 海老澤 幸子

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は70周年記念式典を終え、これまでの歴史の振り返りが出来た事、そして今後の看護界の在り方について改めて考える機会となりました。

当協会は「看護職が誇りをもって安心して働き続けられることにより、保険・医療・福祉の推進を図る」を目標に、ナースセンターは無料職業紹介所として、様々な医療現場で活躍しているすべての看護職の皆様からたくさん利用、活用されるセンターを目指し取り組んでいるところです。今年は平成最後の年と、新たな年号が生まれる記念すべき年であります。干支に関する情報では「己と亥の干支であり、己は草木が成長を終えて形が整った状態、亥は翌年から始まる次の種の成長に備えて内部の充実を心掛けると良い年」となっております。本年も再就業支援、働く環境づくりへの支援に取り組み、センターの充実に努めてまいります。今年もよい年でありますよう祈念いたします。

精神科看護

～一般病棟で役立つ精神疾患別症状アセスメントと看護ケア～

日 時：平成 30 年 11 月 2 日（金）

場 所：茨城県看護研修センター

参加者：46 名

一般病棟で役立つ精神疾患別症状アセスメントと看護ケアを学び臨床現場で活かすことを目的に精神障がいのアセスメントと看護ケア研修が行われました。

講 師：筑波大学付属病院

リエゾン精神看護専門看護師 綿谷恵子先生



精神疾患をもつ患者さんへの介入方法について、先生が経験してきた事例を交えながら接し方や精神状態の査定、臨床現場で遭遇する精神状態の患者さんとの対話、具体的な声かけや聴き方が内容として含まれた講義でした。精神疾患のケースアセスメントの方法だけでなく、一般病棟でも経験する疾患における治療や療養生活中に生じる精神障がいについても研修参加者がグループワークを行い、一緒に考えながら日頃臨床の場で働く参加者同士が意見を出し合いアセスメントを共有し知識を深め看護介入について考え、研修後からすぐに活かしていくことのできる研修風景でした。

<参加者の声>

受講の動機

- ・精神患者への理解を深める良い機会と思い。
- ・回復期リハビリテーション病棟で認知症や高次脳機能障害の患者と接することが多く、精神疾患を持つ患者の対応も増え、どのように接して良いか分からず、誤った対応から不安や興奮を招き看護師側の精神的負担となり、適した対応を学ぶことで日々の看護に活かしたいと思ったため学んだことをどのように役立て、活かしていくか。
- ・情報収集し、観察を行い、患者の問題に対しアセスメントを行いより良い看護を考えて実行していきたい。他病院の方とのグループワークはとても勉強になりました。
- ・対応に戸惑った時、問題の焦点は何かを文章化して、他スタッフと相談・協力し、患者さんへのアプローチを様々な視点から考えていきたい。
- ・精神疾患をもつ患者さんも「気がおかしいと思われるのでは・・・」というような感情・内心があり、私達の表情や口調・態度で患者さんの緊張を和らげる働きがあることが分かった。病棟でフィードバックを行い、患者さんに対する態度などを改めて振り返ってきたい。

取材者：岩瀬・木村

公益社団法人 茨城県看護協会 創立70周年記念式典・祝賀会

日 時：平成 30 年 11 月 3 日（土）

場 所：水戸プラザホテル

参加者：215名

<タイムスケジュール> ****

記念式典：13：30～15：10

茨城県看護協会紹介スライド上映

会長式辞

来賓式辞

来賓紹介

茨城県看護協会会長感謝状贈呈

記念講演「日本の看護 70 年と今後の展望

ー保健師助産師看護師法の変遷をたどりつつー

講師 日本赤十字九州国際看護大学

学長 田村 やよひ氏

祝賀会：15：30～17：00

来賓祝辞

ミニコンサート

村上 守氏 村上 真理子氏



<式典紹介内容> ****

公益社団法人茨城県看護協会 70 周年を記念して水戸プラザホテルで記念式典が開催されました。開式の辞の後、茨城県看護協会の創立から現在までのあゆみのスライドが流れ、相川三保子茨城県看護協会会長よりあいさつがあり、今までの歴史を振り返りました。

来賓を代表いたしまして、大井川和彦茨城県知事、続いてたかがい恵美子厚生労働副大臣、福井トシ子日本看護協会会長、諸岡信裕茨城県医師会会長、秋葉宗志水戸副市長からご祝辞を頂きました。

茨城県看護協会長を歴任され、本協会の運営にご尽力いただいた鈴木清子氏、鳩貝よし氏、重村淳子氏、村田昌子氏に感謝状が贈呈されました。

記念講演では、田村やよひ日本赤十字九州国際看護大学長を講師として迎え「日本の看護 70 年と今後の展望～保健師助産師看護師法の変遷をたどりつつ～と題し、戦後の GHQ の時代から高度成長期、看護婦から看護師に変更したいきさつ、そして今後の展望について話があり、大変濃密な講義となりました。

記念式典終了後に祝賀会が開催され、昔話に花が咲き和やかなムードで会員の親睦が図られました。ミニコンサートでは、村上 守氏・真理子氏の素敵な演奏があり、最後に、日本看護協会歌「光を求めて」が歌われ閉会となりました。



<参加者の声> ****

- ・このような記念式典は初めてであり、70 周年という節目の時に参加できて良かった。
- ・相川会長からお話があったように、私たちが歴史を背負っていかねばと思いました。70 周年の記念式典に参加できて良かった。

取材者：佐川・渡邊

中堅看護職 ～自己と他者のストレスマネジメント～

日 時：2018年11月12日（月）10時～16時
講 師：茨城キリスト教大学精神看護学教授
栗原 加代先生
参加人数：69人

今回の研修は、中堅の看護師を対象に「自己と他者のストレスマネジメント」をテーマに行われました。

ストレスについての基本的理解、その要因、影響を受ける病気等を理解して、中堅看護師が、現在おかれている立場により影響されるストレス要因、自己の特性により影響されるやすいストレス傾向を客観的に理解し評価する。また、ストレスを回避するためのセルフケア行動を知り、自己及び他者のストレスマネジメントにつなげることを目的とする。

途中で、エコグラム・アンガーマネジメント診断などを通して、自分の特性などを客観的に見るなどし、参加者も自分自身を振り返るなど楽しく研修を受けていました。



1. 研修の受講動機

- ・ 仕事の内容、役割にストレスが多くなってきていると感じ、自分が好きな看護を好きなままにしたいと思ったから。
- ・ 自己と他者で感じるストレスの違いとはどういうものか、が知りたかった。
- ・ 管理者になってスタッフとの関わりのなかでストレスのことを勉強したいから。自分自身も管理者になり、ストレスをかかえてしまっているから。
- ・ 外科、内科共に入院する患者さんと新人看護師、上司の「間」で挟まれることが多くなった。

2. 本日の感想、今後どのように活かしていくのか

- ・ 自己の行動パターンを知ることができ、自己のストレスマネジメントに活かしていきたい。また、他者のストレスに対しての理解を得ることで、ストレスマネジメントの重要性を知ることができた。
- ・ 「新人さんを大切に」「新人」は守ってもらえ、考えてもらえるが、中堅スタッフのストレスや頑張りには目を向けられず、「当たり前」になっているが、今日、褒められ、認められたのが泣くかと思う位嬉しかった。今後は、スタッフの思いを聞く時、今日、学んだことに沿って聞いていきたい。指導する時も声のかけ方や、褒めるようにしていきたい。
- ・ 今の自分の事を知り、どのように中堅看護師として対応したらいいのか、後輩育成に対し、ストレスを感じることもあるが、頑張り過ぎず、周りのスタッフと相談しながらできるようにしていきたいと思います。

取材者：岩瀬・小川

アドバンス・ケア・プランニングと看取り

日 時：平成 30 年 11 月 17 日（土）10 時～ 16 時

場 所：茨城県看護研修センター

参加者：117 名

アドバンス・ケア・プランニングを学び、より良いエンド・オブ・ライフケアのための看護師の役割を理解することを目的に開催されました。午前は神戸大学より木澤 義之医師を招き、アドバンス・ケア・プランニングについての講義が行われ、その後患者・看護師役に分かれ、実践しました。

午後は日立総合病院の緩和ケア認定看護師 富山 淳江氏・がん性疼痛看護認定看護師 佐々木 圭子氏による看取りの過程とケアについての講義が行われました。

参加者の中には涙ぐみながら、講義を聞いていた人も見受けられ、とても良い講義でした。

研修の受講動機

- ・研修の内容に、関心・興味があったため。
- ・病状説明等が医療従事者から家族へ一方的に話をしているだけで意思を尊重できていない様を感じていて現状を変えたいと思い、専門的知識や技術を身に着けたいと思いました。
- ・死の現場に関して、本当に患者が望んでいた事だろうかと疑問に思い、ACP を学び意思決定を支えていく必要があると考え受講しました。
- ・患者と家族に死に対して、何かもっと関われる事があるのではないかと思います受講した。

本日の感想

- ・実体験に基づいての講義だったので、分かりやすくおもしろかったです。患者・家族に対してはもちろん、自分や家族はどうするかを考えさせられました。
- ・とても勉強になりました。ACP について詳しく学ぶことができロールプレイを行なうことで学びを深めることができました。
- ・ロールプレイを通して、患者の希望や意思をうまく聞き出すためには、どうしていいか学べた。



今後どのように活かしていくか

- ・少しでも患者さんの考えに寄り添う事ができるような介入をしていきたい。
- ・患者の価値観を明らかにし、患者に寄り添った看護を実践していく事で看護の質の向上に活かしていきたい。
- ・患者さんの価値の掘り下げや、病気に対する認識を聞くことから行っていき、それを周りにも伝えていきたい。

取材者：守屋・佐川

地域包括ケア病棟の紹介



牛尾病院

茨城県龍ケ崎市馴柴町 1-15-1

☎ 0297-66-6111 (代)

退院調整看護師

猪股 純子

当院は、茨城県南部の人口約 8 万人の龍ケ崎市に、1988 年に有床診療所として開業しました。当時の龍ケ崎市はニュータウン開発で若い世代の人口も多かったようですが、30 年経過した現在、高齢化率は全国平均（27%）とほぼ同じで、隣接する市町村は、人口も減少し高齢化率も 35 ～ 40% と深刻な問題になっています。現在当院は、一般病棟 51 床の中に 32 床の地域包括ケア病床があります。その他医療療養病棟 60 床、介護医療院 60 床があり、介護老人保健施設、グループホーム、介護付き有料老人ホームなどの施設の他在宅サービスと連携しており、また別法人として特別養護老人ホームを運営しています。

地域包括ケア病床のベッド利用率は 95% で、入院患者は在宅から 60%、近隣の急性期病院から 20%、施設から 20% の割合です。平均在院日数は 30 日程度で在宅復帰率は 6 カ月平均 88.9% です。リハビリは 1 日平均 3 単位程度です。

急性期病棟からの紹介患者は、骨折術後の患者が多く、包括ケア病床のリハビリは運動器が全体の 70% を占めます。在宅に退院する予定の患者には、家屋調査を行って、実際に戻った後のイメージを持っていただき、必要な手すりや介護ベッドなどの準備を行います。退院後に利用するデイケアのイメージがつきやすいように、実際にデイケアを見学し、同じ場所でリハビリを行うこともあります。介護度に合わせたサービスの提供を担当のケアマネージャーを中心として調整し、安心して在宅生活に戻れるように支援しています。また、誤嚥性肺炎の治療で入院し、回復傾向にある患者に対しては、言語療法士による嚥下評価や NST が介入した補助食品の検討を行います。

「人生の最終段階」に移行している患者に対しては、経口摂取が困難になっている場合、栄養や水分をどのような方法で行うのか、苦痛の緩和に対しては鎮静剤の使用を検討し、救命処置の希望の有無を患者個々に合わせて説明します。メリットとデメリットを理解したうえで、納得できる最期を迎えられるよう介入しています。

自立した生活を目指すため、ベッドから離れた生活を基本とし、日常生活の動作を職員と一緒にしています。また、多職種が同じ目標に向かって支援できるように、ナースステーション内で週に一回合同カンファレンスを行い今後の方針を検討、情報共有した上で患者・家族に対し社会福祉士や退院調整看護師が早期に介入し、詳しい説明をしています。また、法人内の施設代表者が週に一回集まり、施設から入院になった患者の退院時期や施設に戻れなくなった場合の退院先の相談、施設入所中の全身状態に変化があった患者の入院検討をしています。その他、訪問看護・訪問リハビリ・往診など、在宅での医療も継続して行っており、病院と地域を結びつける地域包括ケアシステムをより良い方法で実践していけるよう、努力し続けていきたいと考えております。



新企画

仕事をしていて、こころに残った一言

その日は患者の誕生日であり夫婦の結婚記念日でもあった。患者は病気の進行が早く予後は厳しい状況である。緩和ケア病棟で迎えた大切な日に、患者へ家族に大切な言葉を伝えて欲しいと促した。すると患者は照れたように「ありがとう」と伝えることができ、家族は泣きながら患者を抱きしめた。その後、私にも「ありがとう」という言葉を頂き、その言葉の重みを感じた。今後も言葉のギフトを贈り合えるような看護を提供していきたい。

土浦協同病院 緩和ケア病棟 釜崎久美子

私の心に残った一言は、恩師からの言葉『いつも心に太陽を』です。様々な困難に出会ったとき、それに打ちのめされることなく、常に明るい気持ちで過ごす、いつしか事態が好転していく。これが『いつも心に太陽を』の気持ちでいることであると。その先生はいつも笑顔で、何でも肯定的に捉えてくれる心の温かい人でした。私もこの言葉を胸に、前向きに明るい気持ちでいつもいられるよう日々意識して生活しています。



茨城県立中央病院 永堀 美幸

募集

「仕事をしていて心に残った一言」
その一言があってから頑張っている
その一言で、看護観が変わった
その一言で、救われた

2つのエピソードありがとうございます!(^^)!
これからもどんどん「看護いばらき」で紹介させていただきます。

たくさんのご応募をお待ちしております。

応募要項

今まで行ってきた看護の場面で、患者さま、ご家族、他の医療従事者などからもらった、心に残った言葉・体験を募集しています。

投稿していただいたものを「看護いばらき」にて紹介させていただきます。

対象は、茨城県内で就業している看護職の方です。
氏名、看護職歴、施設名を記載してください。
(匿名での掲載も可能です)

原稿は、300文字以内でお願いします。

郵送先 310-0034
茨城県水戸市緑町 3-5-35
茨城県看護協会 広報委員会 宛

メール先 ibakango@olive.ocn.ne.jp

第11回 いばらき看護職 合同進学就職説明会

開催日

平成31年 **2月9日[土]** 12:30~15:30

開催場所

フェリヴェールサンシャイン

水戸市白梅2-3-86 Tel 029-246-5500

対象者

- 就職活動している看護学生及び看護職
- 看護大学・看護学校等への進学希望者

参加施設

県内の医療機関・訪問看護ステーション、在宅看護センター、特別養護老人ホーム、看護学校など

内容

第1部 11:00 ~ 12:00

○看護師国家試験対策講座

講師 さわ和代氏 さわ研究所代表

第2部 12:30 ~ 15:30

- 県内医療機関の職場紹介
- 学校等の看護学校紹介
- ハローワーク就職相談（ハローワーク水戸）
- 進学・就職相談（茨城県ナースセンター）
- 看護師等の離職時の届出制度

ナースセンターグッズをプレゼント!

第1部参加希望者のみ、裏面のお申込書に記入し
FAX、または、郵送願います。

お申込み先着 30 名様に図書カードプレゼント!

第2部は、参加無料。

事前申込・予約不要。履歴書不要。

服装自由。入退場自由。



参加施設

県央
愛正会記念茨城福祉医療センター（水戸市）
茨城県立あすなろの郷病院（水戸市）
水府病院（水戸市）
水戸済生会総合病院（水戸市）
水戸ブレインハートセンター（水戸市）
水戸赤十字病院（水戸市）
総合病院水戸協同病院（水戸市）
医療法人誠潤会水戸病院（水戸市）
城南病院（水戸市）
訪問看護ステーションふうりん（水戸市）
特別養護老人ホームアクティブハートさかど（水戸市）
医療法人鳳香会（水戸市）
茨城県立中央病院（笠間市）
茨城県立こころの医療センター（笠間市）
小豆畑病院（那珂市）
栗田病院（那珂市）
つくば病院（小美玉市）
県日立製作所ひたちなか総合病院（ひたち市）

県央
在宅看護センター和音（茨城町）
国立病院機構水戸医療センター（茨城町）
村立東海病院（東海村）
国立病院機構茨城東病院（東海村）
県北
聖麗メモリアル病院（日立市）
ひたち医療センター（日立市）
県日立製作所日立総合病院（日立市）
大山病院（常陸太田市）
志村大宮病院（常陸大宮市）
常陸大宮済生会病院（常陸大宮市）
やすらぎの丘温泉病院（高萩市）
県北医療センター高萩協同病院（高萩市）
北茨城市民病院（北茨城市）
県南
総合病院土浦協同病院（土浦市）
石岡第一病院（石岡市）
山王台病院（石岡市）
牛尾病院（龍ヶ崎市）

県南
龍ヶ崎済生会病院（龍ヶ崎市）
つくばセントラル病院（牛久市）
牛久愛和総合病院（牛久市）
いちほら病院（つくば市）
筑波学園病院（つくば市）
筑波記念病院（つくば市）
茨城県立医療大学付属病院（阿見町）
県西
神栖済生会病院（神栖市）
古河総合病院（古河市）
友愛記念病院（古河市）
ホスピタル坂東（坂東市）
茨城県西部メディカルセンター（筑西市）
協和中央病院（筑西市）
看護学校
水戸看護福祉専門学校（水戸市）
土浦看護専門学校（土浦市）
東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校（阿見町）

この説明会は、雇用保険受給者の求職活動の実績となります。

主催 公益社団法人茨城県看護協会

後援 厚生労働省茨城労働局・茨城県

お問い合わせ先
〒310-0034 茨城県水戸市緑町 3-5-35

公益社団法人 茨城県看護協会・茨城県ナースセンター

TEL 029-221-6900 FAX 029-226-0493

茨城県看護協会ホームページ：www.ina.or.jp/ 茨城県ナースセンターホームページ：www.ibaraki-nc.net/



2019年度改選役員、推薦委員及び 2020年度日本看護協会代議員・予備代議員への 立候補について

選挙管理委員長 小島 朋子

2019年6月20日（木）に開催される通常総会（会場：県立県民文化センター）で、2019年度改選役員、推薦委員及び2020年度日本看護協会代議員・予備代議員選挙を執行しますので、「立候補」と「推薦」についてお知らせいたします。

■改選役員と役職数

- 1 理事・監事 12名（任期：理事2年・監事4年・※専務理事のみ前任者残任期1年）
会長1名、副会長1名、専務理事1名（※）、常任理事1名、職能担当理事1名（保健師）、
地区担当理事5名（常陸太田・ひたちなか地区、土浦地区、つくば地区、
筑西・下妻地区、古河・坂東地区）、
准看護師理事1名、監事（事業担当）1名
- 2 推薦委員 9名（任期1年）
- 3 2020年度日本看護協会代議員7名、予備代議員7名（2019年4月1日から1年間）

■受付の方法

立候補される方は、本会会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出書及び立候補推薦届を選挙管理委員長あてに届け出て下さい。

※立候補届出用紙等は、本会ホームページからダウンロードするか、茨城県看護協会事務局に申し出て下さい。TEL 029-221-6900

■宛先

〒310-0034 水戸市緑町3-5-35

公益社団法人茨城県看護協会 選挙管理委員長（親展） あて

■受付期間

平成31年2月1日（金）～2月15日（金）必着
郵送の場合は当日消印有効

平成30年度 理事会報告

◆第5回 12月21日(金)

■協議内容

- 1 2019 年度重点政策・重点事業（案）について 承認
- 2 事業報告（4 月～9 月）承認
- 3 上期監査報告 承認
- 4 予算執行状況について 承認
- 5 平成 30 年度見込み会員数（案）について 承認
- 6 認定看護管理者教育課程細則改正（案）について 承認
- 7 2019 年度日本看護協会長表彰候補者の推薦（案）について 承認
- 8 2019 年度日本看護協会名誉会員候補者の推薦（案）について 承認

■報告事項

- 1 日本看護協会平成 30 年度第 5 回理事会報告
- 2 日本看護協会地区別法人会・職能委員長会報告
- 3 国体・障害者スポーツ大会における救護所等に配置する看護師等確保協力体制について
- 4 創立 70 周年記念式典・祝賀会報告
- 5 茨城県看護研究学会報告
- 6 地区意見交換会報告
- 7 2019 年度茨城県優良看護職員表彰について
- 8 第 55 回いばらき看護の祭典について
- 9 平成 31 年新年の集いについて



「訪問看護師養成講習会」 eラーニング導入のお知らせ

2019 年度より「訪問看護師養成講習会」を e ラーニングで行います。
職場や自宅のパソコン・タブレット等で自分の好きな時間に訪問看護の知識が学べます。

※詳細は 2 月に茨城県看護協会 HP に掲載予定です。

編集後記

あんこう鍋は、「西のふぐ、東のあんこう」と呼ばれ、茨城県の冬の代表的な料理です。2007 年、農林水産省により農山漁村の郷土料理百選に茨城の郷土料理に選ばれています。あんこうは、骨とあご以外は全て食べられます。また、肝臓は「あんきも」とも呼ばれ、見た目と食感から「海のフォアグラ」とも称されています。皮やひれにはコラーゲンが多く含まれており、ビタミン C の多い野菜と一緒に鍋を食べることで美容と風邪予防になります。あんこう鍋を食べて、寒い冬を乗り切りましょう。

広報委員会一同